

中学生一日体験入学 校長挨拶

与論中学校の皆さん、こんにちは。校長の大倉です。今日は一日体験入学に参加してくれてありがとうございます。私は今年度で与論高校2年目になりますが、これまでの教員人生を踏まえて与論高校について説明したいと思います。

私がこれまで赴任した高校は8校あります。甲南高校、加世田高校、大島高校、鶴丸高校、伊集院高校、教頭として喜界高校、玉龍高校です。そして校長として今与論高校にいます。それぞれ素晴らしい高校でしたが、今日はこの与論高校が県内のどの高校にも引けを取らない、いい高校だということを皆さんにお伝えしたいと思います。

別紙プリントのレジメにあるとおり、3点にまとめました。まずは本校での学びについてです。(1)にあるとおり本校では「単元シラバス」「単元テスト」に基づき学習を進めていきますので、定期考査や校内実力考査は実施していません。ですので、定期や実力考査前だけ一気に一夜漬けをして臨むような勉強ではなく、単元ごとにコツコツと毎日それぞれの能力に応じて授業や単元テストに臨むこととなります。授業のレベルよりもさらに高いレベルで深い学びをしたい人、逆に苦手な単元で基礎固めを徹底したい人などには、ベネッセのClassiという学習プラットフォームを整えておりますので、安心して学習を進めることができます。難関大学進学から高校の基礎レベルの学習まで、本人のやる気さえあれば本校で学習に関する心配は一切ありません。

その根拠として、昨年度の大学入試で本校からは東京大学や東京外国語大学など、難関国立大学といわれる大学にも合格者が出ました。県内公立高校から東京大学に合格したのは現役・浪人を合わせてたったの7名です。学校数ではたったの3校、鶴丸高校、玉龍高校、そして本校・与論です。同じく県内公立高校から東京外国語大学に合格したのは現役のみでたったの4名。学校数もたったの3校、甲南高校、加治木高校、そして本校・与論です。

その他、地方国公立大学を合わせて、現役8名、浪人2名の合格者が出ました。本校の卒業生数に対する現役の国公立大学合格率は20%です。県内にある68校の全日制の高校でこの合格率が20%を超える学校は14校しかありません。小規模校ながら本校はその14校に入っているのです。離島に関していえば20%を超えるのは11校中たったの2校。その中の1校が本校です。生徒たちの努力を誇りに思います。皆さんも与論の兄さん・姉さん達の後に続いてほしいと思います。

(2)では、せつかく小中学校時代に学んだ「ゆんぬ学」を本校の探究活動で完成させてほしいということをお願いします。与論だからできること、与論でしかできないことを追求していけば、いわゆるSSH（スーパーサイエンスハイスクール）やSGH（スーパーグローバルハイスクール）がやっているレベルの探究活動は十分可能ですし、これを武器に大学の総合型入試・推薦入試にチャレンジすることも視野に入れられる訳です。でも、いくら与論出身で与論にまつわる内容を探究活動にするといっても、他の高校に進学すれば、その説得力はなくなります。どうしてわざわざ地元を出て地元に関する探究をしなければならないのかということです。ですので、ぜひ本校に進学して皆さんにしかできない探究テーマを見つけ、オンリーワンの特徴を持つ与論高校生になってほしいのです。これを強みにして進学した先輩たちが毎年たくさんいますので、先輩たちから多くのヒントを得ることもできるのです。

探究活動では大学との連携も進んでおります。東京大学の「サイエンスキャンプ」、鹿児島大学の「価値創造ゼミ」では、希望者が与論にまつわるテーマを深掘りして探究活動を進めています。この経験者から大学の総合型入試や推薦入試で合格者が複数出ていることも付け加えておきます。

(3)は高校卒業時に与論高校生に身につけてほしい人間性です。中学生にはまだピンとこないかもしれませんが、高校時代を与論で過ごさないと、これらのことは自分事として意識することが難しいのではないかと思います。感受性が豊かで、しなやかな心を持っている若い時期、特に高校時代に体験する出来事は一生の宝です。これらを基に「与論人（ゆんぬんちゅ）」としてのアイデンティティーを確立してほしいのです。

大きな2番では逆転の発想を提示しています。普通、大規模校と小規模校では、大規模校の方が何かといいとか、優れているとか考えられがちですが、必ずしもそうではありません。もちろん大人数で大きな事をする面では大規模校のメリットは大きいですが、1クラス40名の教室はギチギチですし、人数が多ければいじめや喧嘩、嫌がらせ、盗難などの良くない出来事も少なくはないのです。もし、今ここにいるこのメンバーが与論高校に入学したとして、そのようなことが頻繁に起こると思いますか？ 私にはそうは思えません。全員入ったとしても50数名。1クラス25・26人です。大規模校がわざわざ苦勞してクラスを解体して少人数指導をしたりしていますが、本校ははじめから少人数です。これをさらに習熟度や選択授業などで解体しますので、授業を数人の生徒で行うことも多々あります。数人で一人の先生を独占できますので、質問はし放題で学習指導はほぼ個別指導です。学校そのものが、CMでもよく目にする「個別指導のトライ」みたいなものなのです。

本校は小規模校ではありますが、海外との繋がりが他校よりも多いことが自慢でもあります。まずは修学旅行ですが、少人数のアドバンテージをフルに活かして、コンパクトな移動が可能となり、今年も台湾へ飛び出すことができました。修学旅行については別紙の修学旅行の様子や校長通信第13号を後で見てください。どれだけ充実していたかがわかるとと思います。県内公立高校で海外に修学旅行に行っているのは、本校を含めて2・3校しかないことも付け加えておきます。

また、海外の留学生や大学生の来島も多く、本校での交流を希望すれば基本的に受け入れております。これらの人たちとの日常の交流は他校では経験できるものではありません。今年はイギリス・インド・カナダから留学生や大学生がやってきます。オンラインでの交流もフルに活用しています。今年度もグローバルクラスルームで台湾の高校生とつながります。生徒たちの刺激になっていることは間違いありません。

通学のし易さという点も軽く考えてはいけません。与論島では、満員で座れない電車やバスを使い、1時間や2時間かけて通学する必要は当然ありません。自転車かバイクで数分で、しかもタダで通学できるこの環境は間違いなく県内一の環境です。通学のストレスで心身の健康を崩し、登校できなくなる生徒が他の地域では少なくないことを覚えておいてください。それくらい、与論島は恵まれた環境なのだということです。現在、本土では電車やバスの減便、加えて運賃の値上げが相次いでおり、通学環境が悪化していることも考慮しなければなりません。

最後に皆さんへのメッセージです。まずは中学生のうちに「座学力」（これは一人で座って人の力を借りずに黙々と勉強できる力のことですが）この「座学力」を身につけて「脳に汗をかく」経験をしてください。教科の勉強も探究活動も自分の頭でとことん考え抜くということです。

2番目は「ルーツに誇りを持つ」ということです。これは先ほど述べた「与論人（ゆんぬんちゅ）」としてのアイデンティティの確立と共通していることですが、皆さんの祖先を崇拝し与論の自然や文化を後輩に繋いでいくために、是非本校で学んでほしいということです。

そして最後のメッセージが「与論高校から『島だち』してほしい」ということです。皆さんは島の宝です。同時に与論の将来を担う貴重な人材でもあるのです。心身ともに急激に成長する高校3年間を与論の仲間たち（先輩・後輩）と過ごし、将来どんなことが起きてもお互い支え合える信頼関係を高校時代に築いてほしいのです。このような経験を積んだ高校生の方が、社会に出て貴重な戦力になると私は信じています。与論中学校の皆さん、来年度

一緒にここで学びましょう。待っています。与論高校のHPも是非見てください。「校長通信」以外にも私の講話や行事などについて載せてあります。与論高校が今どんな方向に向かっているのかが分かると思いますので是非ご覧ください。

この後、体験授業があります。もし分からないこと、質問したいことがありましたら本校職員に遠慮なく聞いてください。また、本日に限らず平日も事務室を通ってもらえば出入りは自由です。気兼ねなくお話に来てください。それではこのあと楽しんで帰ってください。以上で私からの話を終わります。